

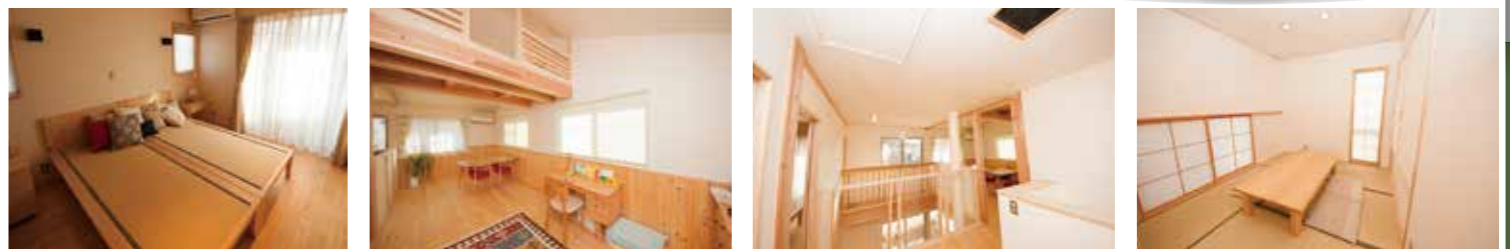
2030年基準を見据え、CO2消費を抑える家。

熊本県 / E社 / 木造

未入居



設計 長期 低炭素



理想は光熱費ゼロ
2015年100%達成が目標

弊社では、九州という地域性を活かした住まいの提案を行っています。基本は木の家、自然素材で健康に配慮した家。太陽光や風を、いんだんに活用し、光熱費ゼロも可能にする2030年基準を見据えた住まいを提供しています。

低炭素建築物認定、熊本第一号を取得したこの家には、高断熱と高速熱をへーすにした効率の高い設備を採用。太陽光エネルギーを最大限に利用した発電と熱利用により、一次エネルギー消費量を大幅に削減することができました。夏は地熱で家を冷やします。

木材は産直で調達 天然乾燥無垢材を使用

CO2削減のために、使用する木材にもこだわっています。木材産地に工場を設置し、産地から直接木材を買い付け、乾燥加工して山から届けるシステムを構築しました。木材は切り出してから乾燥しなければなりません。自然乾燥なら、化石燃料を使う人工乾燥に比べてCO2の排出が約6分の1に抑えられます。しかも時間をかけて乾燥するので色艶も良く、自然の香りが楽しめる好評です。

低炭素建築物を建てるだけではダメ アフターフォローも大切

弊社では省エネルギー住宅を建てる技術を確認し、お客様にも数多く提供していますが、ライフスタイルによっては省エネの効果があがらない事例があるこ

とがわかりました。

せっかくいい家を建てても、建てっぱなしではダメなんです。使用電力量から使い方を分析しお客様へフィードバックする環境家計簿の提供、エコライフコンテストの実施、夏季の日射遮蔽へのアドバイスなどを行い、住まいの性能を十分に発揮できるようにしていきます。



E社 担当:S様より



発電状況を、リビングなどでモニタリングできます。



リビング中央部の「立ち下がりがダクト」を通じて、取り込んだ熱が床下に送られます。



ソーラーパネルから太陽光と、太陽熱を取り込みエネルギーとして活用します。

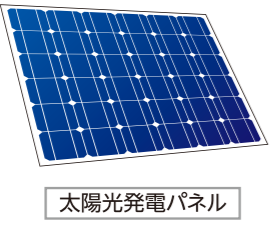
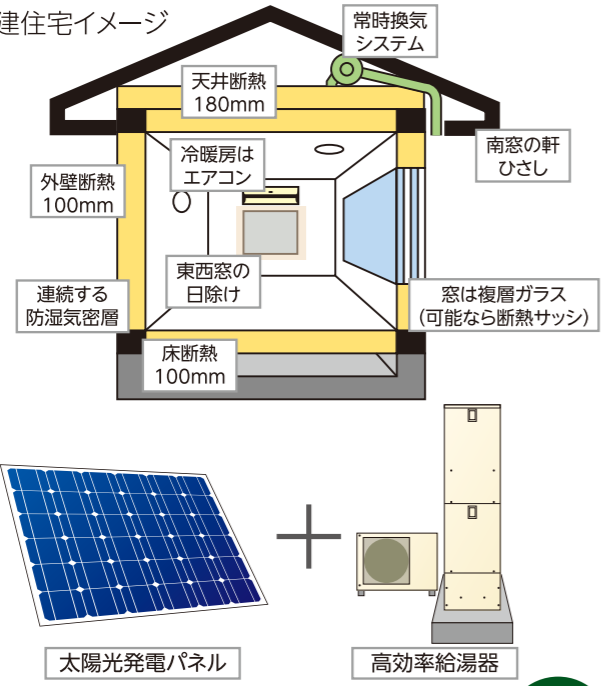
「低炭素建築物認定制度」とは

建築物における生活や活動に伴って発生する二酸化炭素を抑制するための対策がとられている、市街化区域内等に建築される建築物を認定する制度です。

必須項目

外皮の熱性能(断熱性・日射遮蔽性)及び住宅設備機器の一次エネルギー消費量の基準について一定以上の性能があること。
※省エネ法の省エネルギー基準と同等以上の断熱性を確保すること。
※省エネ法の省エネルギー基準に比べ、一次エネルギー消費量(家電等のエネルギー消費量を除く)がマイナス10%以上となること。

戸建住宅イメージ



一次エネルギーとは?

一次エネルギー

化石燃料、原子力燃料、水力、太陽光など自然から得られるエネルギー

変換・加工

二次エネルギー

電機・灯油・都市ガス等



選択的項目

「低炭素化に資する措置(8項目)」のうち2項目以上の対策がとられていること。

(例)

エネルギーマネジメント
エネルギー使用量の「見える化」(HEMS等)などにより居住者の低炭素化に資する行動を促進する取組を行っているなど。

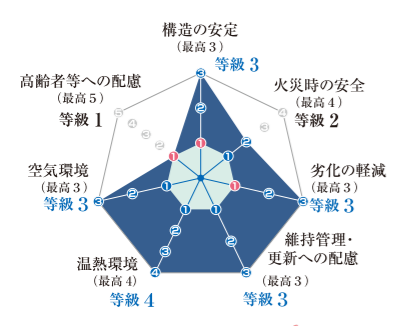
節水対策
節水型機器の採用や雨水の利用など節水に資する取組を行っているなど。

建築物(躯体)の低炭素化
木材などの低炭素化に資する材料を利用しているなど。

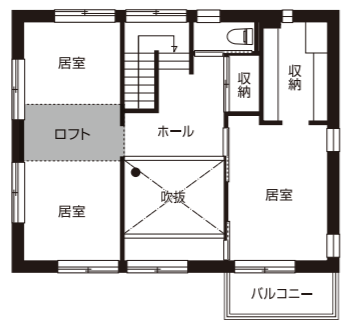
ヒートアイランド対策
敷地や屋上、壁面の緑化などヒートアイランド抑制に資する取組を行っているなど。

認定を受けた新築住宅については、**税制特例などのメリット**もあります。詳しくは裏表紙の「もっと知りたい住まいの情報」よりご確認ください。

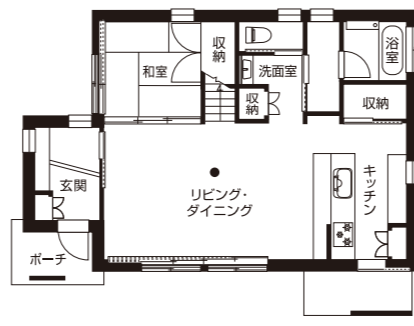
住宅性能評価レーダーチャート



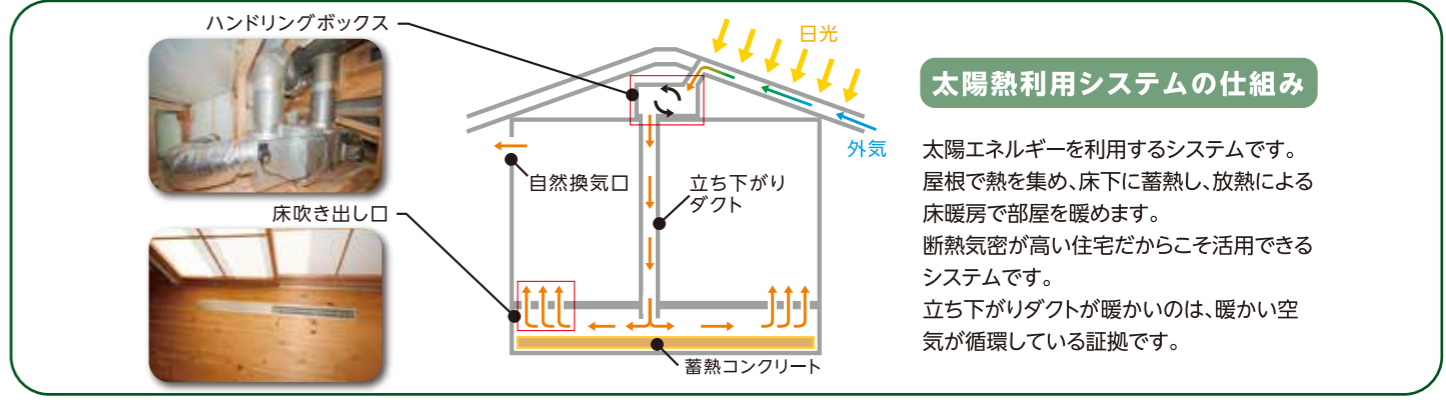
2階



1階



取材担当コメント 快適に暮らせてCO2削減ができるなんて、これからの住宅の姿を見た気がします。



太陽熱利用システムの仕組み

太陽エネルギーを利用するシステムです。屋根で熱を集め、床下に蓄熱し、放熱による床暖房で部屋を暖めます。断熱気密が高い住宅だからこそ活用できるシステムです。立ち下がりが暖かいのは、暖かい空気が循環している証拠です。